

事業報告書

事業名 ザ☆のだじまん



- 1 実施団体 ふれあい音楽祭実行委員会
- 2 担当課 社会教育課・市民活動推進課（青梅市民センター）
- 3 実施時期 令和2年9月15日 広報おうめ募集開始
令和2年11月29日 ザ☆のだじまん実施
令和3年1月21日 まとめ三役会

4 参加者

出演者10組（20名）、バンド4名、司会1名、当日スタッフ14名、観客60名（入れ替え制）、LIVE 配信視聴者数150名、ベストパフォーマンス投票者数1251名（オンライン参加含む）、YouTube 視聴回数1975回（令和3年1月24日現在）

5 実施場所 ネットたまぐーセンター多目的ホール

6 事業の目的

- ① 生涯学習の入り口として、普段音楽活動を行っていない人も、生

バンドで歌うという体験を通じて音楽に親しみ、舞台に立つという体験をする。

- ② 子どもから高齢者まで、また障害の有無を問わず、多世代、多様性を実現する活動とする。
- ③ 音楽を通じた、地域紹介・人物紹介をテーマとし、観客も含めた誰しものがその時間を楽しめるプログラムとし、出演者・観客が一体となり楽しむことで、青梅って素敵だなと思える郷土愛を育む。

7 役割分担

・団体の役割

企画・運営…参加者募集チラシ作成、選考会・リハーサル運営、バンド・司会担当との連絡調整、ステージコーディネート、オンライン配信環境整備、協賛金募集

広報…参加者募集チラシ、協賛金チラシ配布、フェイスブック運営、多摩ケーブルテレビ、omegocoti等宣伝依頼

・担当課の役割

広報…広報おうめ9月15号、11月15号掲載手配
参加者への事務連絡、会場確保

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

行政と協働することにより広範囲な告知が可能となり、多様性のある参加者・団体の参加が実現した。高校生から80代の方まで幅広い年代、外国籍の方、障がい者団体の参加と多様性がある方々が共に楽しめる企画となった。

YouTubeのLIVE配信により、会場に来られない方も同じ時間を共有することが可能となった。コロナ禍において、新しい生涯学習の形を提案することができた。

出演者のご友人、ご親戚などで関西圏や海外から視聴された方も

おり、「ザ☆のどじまん」のコンセプトである〈人物紹介〉、〈地域紹介〉が青梅という町を越え、全世界に発信することができた。

9 目標達成

事業の目標：

1. 参加希望者を広く募り、10組のステージに立つ人・グループを確保します。
2. 広く募ることで、企画の周知につなげ、多くの市民の方に「おもしろいことがあるな」という文化交流の場の存在をお伝えしていきます。
3. ネットたまぐーセンター文化祭のステージでの実施を検討し、多目的ホールの客席をソーシャルディスタンスに配慮した95席とします。
4. TCNなどの協力を仰ぎ、本番の様子を会場にいる人だけでなく、多くの方がみることができるところを目指し、オンライン同時配信の視聴者の目標人数を500人として、会場のキャパシティ以上に、多くの人と楽しさを共有します。
5. 協賛金を広く募ることで、今後の事業の継続につなげていきます。

目標の達成具合：

1. 10組20名の参加があり、目標は達成できた。
2. 広報おうめ、チラシの配布、フェイスブックによる宣伝により、多くの方に告知できた。
3. コロナウィルス再流行による入場制限があり、ホールの客席は30名に絞られたが、会場は入れ替え制で60名の観客を迎えることができた。
4. ベストパフォーマンス投票者数1251名（オンライン投票含む）の参加があり、視聴者の目標人数500人を達成できた。
5. 多くの市民から協賛金のご協力をいただき、今後の事業継続の見通しが立った。

10 事業の実施内容

- 9月6日 ふれあい音楽祭フェイスブックページにて出演者募集告知開始・出演者募集チラシ配布開始
- 9月15日 広報おうめにて出演者募集案内掲載
- 9月19日 ふれあい音楽祭フェイスブックページにて協賛金依頼案内開始・協賛金依頼チラシ配布開始
- 9月末日 出演者応募締め切り・第一次選考。応募者全員を第2次選考通過
- 10月18日 第2次選考会
- 11月10日 YouTube 配信業者と現地打合せ
- 11月15日 広報おうめにて「ザ☆のだじまん」オンライン配信案内掲載
- 11月22日 出演者・バンドリハーサル
- 11月28日 前日仕込み作業
- 11月29日 当日・LIVE 配信、事後
(<https://www.youtube.com/watch?v=rK7PYA2kC-Q&feature=youtu.be>)にて配信継続
- 1月21日 三役まとめ会

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	1	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

当団体は市民が楽しめる音楽祭を追求する中で、この「ザ☆のどじまん」というコンテンツを生み出してきました。実践を重ねる中で「音楽を通じた人物紹介・地域紹介」に特化した、市民のためのイベントの一つの形として整いつつあります。参加者一人一人がイキイキすることができ、なおかつ観ている人も含めて、青梅市への郷土愛につながっていくこのイベントを、できれば長くこの青梅市で続けていきたいと思えます。

そのために必要なのが資金やマンパワーですが、協賛金など市民の力だけでやっていくのは負担が大きく感じています。

今回協働事業で行うことで、公共性も大きく広がりました。

来年度は助成金を申請しておりますが、今後青梅市の社会教育・生涯学習の1つのプログラムと位置付けて頂き、市と市民団体が協働していくからこそ実現できる生涯学習の場を共につくっていくことを期待しています。本年にとどまらず今後も協働関係をつくって頂けることを提案したいと思えます。

13 その他

11（10）評価を1と致しましたが、本来ならば、まとめ会をしたかったのですが、コロナの現状が厳しく持つことが困難でした。今後、コロナウィルスの流行状況を見ながら開催を検討させて頂きたいと思えます。